



現在参加している2基のうち、大きい方の鼻の高さは2.9メートル、顔の大きさは縦4.2メートル

**沼** 田はてんぐとの結びつきが強いまちです。日本三大てんぐの迦葉山弥勒寺にはじまり、街中には場所の名前にてんぐが使われていたり、大天狗や石像が設置されたりとてんぐだらけ。てんぐをお神輿に掲げ、巨大な「天

狗みこし」を女性だけで担ぐのが沼田の名物です。天狗みこしは交通安全を祈願するために制作され、昭和47年に沼田まつりに登場。天狗みこしの鼻を空高くかかげ、「サア、サア」と声を響かせ練り歩きます。

# 和太鼓や踊りにぎやかに 天狗みこし 威勢良く

ハワイでてんぐPR

「疲れも痛みも忘れるほど楽しくて。大人数で一体感を味わえることが最高です」

約25年前、小林ゆり江さんは沼田まつりで天狗みこしを担いで以来夢中になり、担ぎ手奉仕団の華翔連で活躍しています。渡御終了後にメイン会場で締める踊り「ラッセーラ」は、達成感を味わえ気持ちが高揚します。

2016年、「まつりインハワイ」へ参加するため、天狗みこしがハワイへ出張。約200パーツに分割できる重さ計300kgの天狗面を段ボールで製作しました。当日は市内外から約60人、現地の日系人も参加。カラカウア通りを練り歩き、「てんぐは目を引き盛り上がった」と振り



天狗みこし渡御の約3時間、そろいの支度で沼田のまちを踊りながら回る舞華

返ります。

4年ぶりの沼田まつりへの思いは熱く、「我慢していたパワーを発散し、元気に担ぐ姿を見てほしい」と小林さん。本市出身で台湾紅茶産業の発展に貢献した新井耕吉郎に触れると、「次は台湾。天狗みこしを世界へ広げていきたい」と意気込みます。

◆天狗みこし担ぎ手募集

申し込みは左記フォームまたは産業振興課 ☎内線5004、沼田商工会議所 ☎23・1137



申し込みフォーム



華翔連団長  
小林ゆり江さん